

5 月 9 日月曜日に、「これから課題研究を始める仙台一高生のために」というテーマで東北大学大学院生命化学研究科の酒井聡樹先生による講演会がありました。

「研究とは何か」「意義のある研究に取り組もう」「課題研究の進め方」の 3 つのテーマに分けて講演をしてくださいました。



1, 研究とは何か

研究とは、多くの人にとって未解決で、なおかつ解決が望まれている問題、つまり学術的問題の解決に取り組むことです。完全な答えを出すことができなくても、失敗の原因や改善の方法を突き詰めれば、今後の研究に役立てることができます。そして研究は、問題に取り組んで終わりではなく、その問題の解決を望んでいる他者に伝えることとセットで扱われます。

2, 意義のある研究に取り組もう

研究とはいえないものの例に、自分で考えていない（実験や本の真似など）、解決済みである（結果が明らかであるもの）、誰も解決を望んでいない（その問題に取り組む意義がないもの）、といったものが挙げられます。

さらに、取り組む意義は、「自分が興味を持った」というような自己中心的なものではなく、他者も興味を持つようなものでなければいけません。

3, 実際の課題研究の進め方

①取り組む問題を決める

最初に、先生、先輩、友人、本、インターネットなどから、テーマになりそうな、面白そうなものを探します。面白そうなものを見つけたら、それについての情報を集め、先程述べた「意義のある研究」になるかどうか改めて考えます。

テーマは問いかけ文（どうして〇〇なのか？など）にすると、研究が進めやすくなります。さらに、解決の見通しが立つか（どんな研究をすれば解決できるのかも分からないものは×）、限られた設備、時間、資金で研究を進められるかどうかなども考える必要があります。

②仮説を立て検証する

仮説を立てるには、取り組む問題について、文献を読み、予備実験、予備調査などを事前にして、理解を深めることが重要です。

③取り組む内容と研究内容を一致させる

問題を明確にすることで、以降の研究を進めやすくすることができます。

④研究記録をとる

研究記録は細かく、誰が見ても分かるようにまとめることで、考察や発表の時ににおおいに役立てることができます。

～講演を聴いての感想～

・今回の講演で、研究とは何か、学術的問題とは何かについてよく知ることができました。研究は不特定多数の人に発表するため、その目的は成果を出すことではなく、成果を出して他者に伝えるということです。また、研究は自分の興味のあることを研究するものだと思っていましたが、そうではなく、自分も興味があり、他者の興味をも引き出せる問題を研究するべきだということに気づきました。

・ただの研究じゃなく、普段の生活に生かせる研究を行うことが大切であると気づいた。また、研究は実験や調べ学習といった、答えが大体理解できているもので行うのではなく、分かっていない答えを追い求めていくことだと知った。さらに、それに関係ないことや調べる意味のないことを研究ではいけないことが、シンプルで、かつ一番重要なことかもしれないと感じた。

・自分の興味を調べるのではなく、あくまで「他者に伝える」ために研究することを学んだ。学術的問題に取り組むことや、目的と意味を見出すことも、全て他者に興味を持たせるために意識するべきだということに気づいた。自分と他者がどちらも「面白い!」「知りたい!」と思える研究を目指すべきだと考えた。そして、これまで自分がおろそかにしがちだった記録がとても重要であることを学んだ。

・価値のある研究のあるテーマを見つけるのは案外難しいものだと分かりました。過去の例を見ると自分たちもやってしまいそうと思ってしまったのですが、発表を見ると全く無意味なものだということが分かりました。適切なテーマを決め、人々の助けになりうる課題研究をしていきたいと思いました。



編集後記

今回の公演では酒井聡樹先生にこれから私たちが行っていく課題研究において大切にすべき3つのことを教えていただきました。酒井先生のご講演はこれから実際に研究を始める私たちが「こうありたい」「こんな研究をしたい」と考える重要な機会となり、今回学んだことをこれからの研究に活かしていきたいと思いました。

改めて、貴重なお話をして頂いた酒井先生に、感謝したいと思います。酒井聡樹先生、この度は良い経験をさせて頂き本当にありがとうございました。